

# 平成 21 年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校

学校番号 58

## I 自己評価

1 学校教育目標	社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、一般教養及び専門的知識や技術を身につけるとともに、創造性あふれた明朗快活で心豊かな人間性を養う。	
2 評価する領域・分野	◇ 教務	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・保護者とも肯定的な回答が8割を越え、統合後、熱心に取り組んできた活動が認知され、浸透してきた。</li> <li>・授業の教え方や評価の仕方について、若干否定的評価が見られる。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇授業規律や改善への取り組みを再確認するとともに、分かる授業を心がけ、評価の方法について、さらに生徒、保護者への浸透を図る。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務部と教科、学科、学年との連携強化</li> <li>・両校舎教務部および定時制・通信制との連携</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 他課程、教科等の授業参観、意見交流 (2) 「指導と評価の年間計画」、「シラバス」	(1) 全授業を対象とする授業公開への参加状況 (2) 前年度中の内容改訂と年度当初の配布・説明	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究(公開)授業の実施、授業公開週間の計画、教科会議、意見交流の実施</li> <li>・「シラバス」・「指導と評価の年間計画」の前年度中の内容改訂と年度当初の配布・説明</li> <li>・各学年・学科の目標と教育課程のあり方の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①計画立案に組織的に取り組めたか。</li> <li>②目的を明らかにした職員への周知は図れたか。</li> <li>③取り組みが浸透しているか。</li> </ul>	<p>A B <b>C</b> D</p> <p>A <b>B</b> C D</p> <p>A <b>B</b> C D</p>
11 成果・課題	<p>○評価の方法や授業の進め方について、既存の「指導と評価の年間計画」や「シラバス」の改訂を行い、年度当初に説明、配布できるよう改善した。</p> <p>○学科、学年との連携を図り、基礎基本の定着とともに応用学力をつけるための取り組みや、各学科とも新しいカリキュラムへの検討も進んだ。</p> <p>●公開授業や授業公開週間への参加状況が十分でなく、ともすれば形式的なものとなりがちである。より効果的な授業改善策を検討したい。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案		
<p>授業改善への取り組みは、我々の生命線でもある。3課程、4大学科、2校舎という本校の最大の特徴を活かし、それぞれの連携を強化し、周知を図ることで、保護者や地域住民を巻き込んだ課程間、校舎間の交流を一層図る。また、各教科における研究(公開)授業の実施を組織的に取り組む。</p>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成22年1月25日

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・座学の授業については、生徒がどのくらい予習し積極的に取り組んでいるのかについて、やや物足りなさを感じた。全体的に授業への取り組みが受身的に感じる。(第1回評議員会より)</li> <li>・どの学科の生徒も高いレベルの学習を行っていると感じる。いつまでも今の姿勢を持ち続けてほしい。</li> </ul>
--

# 平成21年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校

学校番号	58
------	----

## I 自己評価

1 学校教育目標	社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、一般教養及び専門的知識や技術を身につけるとともに、創造性あふれた明朗快活で心豊かな人間性を養う。	
2 評価する領域・分野	◇ 生徒指導（教育相談）	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・携帯電話等の情報リテラシーの指導、人間としてのモラルやマナー指導、身だしなみの指導に対して高い評価を受けたが、まだ不足している部分もあり今後も教員の共通理解のもと継続的な指導を行う必要がある。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 身だしなみ、挨拶や礼儀の指導の充実・情報リテラシーの醸成。 ◇ 教育相談的な問題を抱えている生徒に対する全職員の共通理解。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒指導部のリーダーシップの下に、学年、学科を中心とした全職員による指導。 ・校内支援委員会、職員会議を通じて個々の生徒の情報共有。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 登下校時などにおける身だしなみ指導。 (2) 特別支援コーディネーターを中心として、個々のケースに対応した柔軟な取組。 (3) 外部講師などによる職員研修の充実。	(1) 生徒の身だしなみや挨拶、来客への対応等で総合的に判断する。 (2) それぞれの生徒がベストの道を選択できるよう、最大限の援助ができたかで判断する。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会やMSリーダーズとタイアップして、毎朝登校時に、挨拶運動や身だしなみ指導を実施した。</li> <li>・本人の思いを大切にしながら、親と関係職員が連携を密にした上で、全職員による支援体制の充実を図った。</li> <li>・情報モラル教育のための研修会を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①全職員の共通理解の下に、積極的な生徒指導が行えたか。</li> <li>②生徒の中に、自ら高めていこうという気持ちを醸成できたか。</li> <li>③複数の職員がそれぞれ役割を分担しながら、組織的に対応できたか。</li> </ul>	<p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p> <p>A Ⓑ C D</p>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の身だしなみや挨拶について、外部から高評価が得られるようになるなど、着実に指導が結果として現れてきている。</li> <li>○教育相談的な問題を抱えた生徒について、対応の結果はさまざまであったが、全職員で問題を共有しながら、考えられるベストの対応ができた。</li> <li>●携帯電話の使用に関して、ゲームやサイト閲覧に対する指導が十分ではなかったため、今後さらに丁寧に指導していく必要がある。</li> <li>●不登校生徒への欠課補充をどうするかという問題に関しては職員の共通理解が不十分であり、今後もさらに話し合いを続ける必要がある。</li> </ul>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話の学校での使用目的に鑑み、始業から終業までの使用を禁止し、情報メディアの扱い方について生徒の意識を喚起する。</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成22年1月25日

### 【意見・要望・評価等】

- ・生徒諸君の文武両面での活躍の様子を見て大変心強く思う。
- ・MSリーダーズの諸君は市の青少年健全育成活動にも参加して、市民の啓発にも一役買ってくれている。  
生徒諸君の積極的な奉仕活動の様子を見て大変心強く思う。

# 平成21年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校

学校番号	58
------	----

## I 自己評価

1 学校教育目標	社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、一般教養及び専門的知識や技術を身につけるとともに、創造性あふれた明朗快活で心豊かな人間性を養う。	
2 評価する領域・分野	◇ 進路指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路の情報提供に対し、充足感が得られていない生徒がいる。</li> <li>・進路指導に対する肯定回答の保護者が微増した。</li> <li>・学校から発信された情報が保護者にあまり伝わっていない。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 進路指導体制の確立と職員の情報提供能力の育成 進路実現に向けての意欲の喚起と実力の向上	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科ごとに連携を図り、取り組んでいる。</li> <li>・学科で組織的に指導するための援助や情報の連携を図る。</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 進路希望別ガイダンスの実施 (2) 保護者会を開催	(1) アンケート調査を実施。 (2) 講師に参加生徒の反応などを聞く。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路体験報告会（縦割りLHR）を実施。事前指導・事後報告。</li> <li>・学年ごとに進路希望別ガイダンスの実施。</li> <li>・就職希望の保護者会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①発表態度と聴取生徒の反応。</li> <li>②質疑応答の内容とアンケート結果。</li> <li>③出席者数と反応、質問内容。</li> </ul>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A B (C) D</p>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進学指導や資格取得、検定合格に向け、熱心に取り組んでいるという評価が高く、充実感を持っている。</li> <li>○教員が生徒に対し、熱心に取り組んでいることが、理解され、保護者も認識している。</li> <li>●学校から発信された情報が保護者にあまり伝わっていない。</li> </ul>	
12 来年度に向けての改善方策案 家庭で学校の話が頻繁に出て、進路のことを気軽に何度でも家庭で話せる雰囲気をつくれるように、保護者へのガイダンスを設けるようにする。 定期的に進路便りを発行し、保護者に対し、進路について実感を持って考えてもらう。		

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成22年1月25日

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生の生徒について、どの生徒も高度な教養と正しい考えを身につけていると感じる。3年間の努力に賞賛を送りたい。</li> <li>・生徒や先生方の努力で学校がうまくいっているが、その様子をもっと保護者や地域に伝えてほしい。</li> </ul>
--

# 平成21年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校

学校番号	58
------	----

## I 自己評価

1 学校教育目標	社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、一般教養及び専門的知識や技術を身につけるとともに、創造性あふれた明朗快活で心豊かな人間性を養う。	
2 評価する領域・分野	◇ 特別活動	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、生徒とも学校行事は盛んであるとの認識が高い。</li> <li>・部活動については、非常に活発であるとの認識が高い。</li> <li>・両校舎生徒会活動は盛んであるが、統一した活動はまだ少ない。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇統一生徒会活動・行事の充実と、部活動のさらなる活性化。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師を含めた、部顧問による指導体制の充実。</li> <li>・部顧問、講師の適正配置。</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 統一生徒会活動の充実 (2) 部活動の活性化、1年生部員へのサポート	(1) 統一生徒会活動の交流活動数の増加 (2) 部活動加入生徒数の増減	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶運動、制服着こなし推進運動の統一活動。</li> <li>・文化祭、ひのう祭の日程調整による両校舎交流。</li> <li>・対面式、部紹介の合同実施。</li> <li>・部活動時間の見直し。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①両校舎生徒会の交流活動</li> <li>②両校舎行事の交流</li> <li>③部活動の活性化</li> </ul>	<p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○統一生徒会として、募金活動や挨拶運動など交流することができた。</li> <li>○対面式、部紹介を合同で実施することができた。</li> <li>○文化祭、ひのう祭の開催期日に配慮し、両校舎が相互交流することができた。</li> <li>○部活動の全体的なレベルの向上。</li> </ul>	
12 来年度に向けての改善方策案 統合5年目になり統一生徒会活動、生徒会行事が充実してきた。更なる交流活動の充実を図りたい。 一方で、学校全体のレベルが向上し、放課後実習や補習活動が活発になり、部活動との両立が課題となってきた。特に1年生へのサポートが必要である。		

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成22年1月25日

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会の活動は、具体的でわかりやすいスローガンを掲げているので活動しやすく、そのことが学校全体を良い方向へ導いていると思う。</li> <li>・部活動については、活動環境の充実も含めて、活動を支援していきたい。今の活動ぶりを伝統として後輩に引き継いでいってほしい。</li> </ul>
--

# 平成21年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校 学校番号 58

## I 自己評価

1 学校教育目標	社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、一般教養及び専門的知識や技術を身につけるとともに、創造性あふれた明朗快活で心豊かな人間性を養う。	
2 評価する領域・分野	◇保健厚生	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、保護者の肯定評価が低く（67％）、否定評価が高かった（18％）「地震や台風などの場合の対応について、生徒や保護者（地域）に対策マニュアルが知らされている。」の項目は、肯定評価77％、否定評価11％と、評価が向上した。しかしまだ十分な結果とはいえない。</li> <li>・同項目に対する生徒の評価は、肯定70％・否定17％と低く、生徒保護者ともに、緊急時の対応にまだ不安を抱かせるものである。</li> <li>・台風対応マニュアル、地震防災マニュアルは作成されているが周知されていない。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇インフルエンザ対応マニュアル（生徒・保護者、教員）、危機管理マニュアル（不審者侵入・地震防災・台風対応）の周知徹底 ◇生徒の自主的な健康状態の把握と健康管理	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・両校舎の保健厚生部と生徒指導部が一体となって推進	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
・マニュアルの広報	・アンケート結果	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種マニュアルの作成、点検、整備</li> <li>・台風対応マニュアル（警報発令時における登下校について）と地震防災マニュアルの育友会総会での保護者への配布と説明</li> </ul>	①生徒はマニュアルを知っているか。 ②保護者はマニュアルを知っているか。 ③職員の危機対応意識は、高まったか。	A B <b>Ⓒ</b> D A <b>Ⓑ</b> C D A <b>Ⓑ</b> C D
11 成果・課題	○マニュアルの整備や広報を進める中で、忘れがちな生徒・職員の危機意識が高まった。 ○マニュアルを育友会総会で保護者へ配布説明し、保護者の意識は高まった。 ●生徒・地域への周知がまだ弱い。	
12 来年度に向けての改善方策案 生徒に対しては各種マニュアルについて、防災避難訓練時などで全校一斉に説明する。保護者に対しては、引き続きマニュアルを育友会入会式や育友会総会の場で配布・説明し、周知するとともに、学校HPにも公開して、地域などへの周知も図る。		

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成22年1月25日

### 【意見・要望・評価等】

- ・全日制の、学校からの連絡文書の届き方についての評価が定時制・通信制よりも全日制が低いのは、情報量や機会の差が影響しているものと思われる。（第2回学校評議員会より）